

令和4年度 いのちの授業 事例集（小学校）【生活】

掲載数

53

地区	学年	教科等	テーマ	内容	参考事項（講師・教材等）
1 川崎市	小2	生活	明日へジャンプ	自分はどのようにして大きくなってきたのか。初めは担任の子どもの赤ちゃんの洋服などを見せ、小ささを実感させ、自分たちにもこんな時代があったことをおさえた。冬休みの宿題として、保護者にインタビュー活動や思い出の品を集める活動をさせ、自分の成長と共に、大事に育ててくれたお家の人が近くにいるということを実感させた。一人ひとり成長の過程等は違っても、家族が大事に育ててくれた自分の命を大切にしよう。感謝を伝えていこうと思いをもちることができた。	生活の教科書 NHKフォースクール 各家庭によるインタビューや幼いころの私物や写真集めの協力
2 川崎市	小2	生活	明日へジャンプ 「わたしが生まれた時」	入学してからこれまでを振り返り、心身共に大きく成長したことを実感した。そこで、小学校入学以前はどのような様子だったのか、おうちの人をはじめ、身近な人にインタビューをする活動を行った。家族構成やこれまでの成育歴に配慮した上で、おうちの人に協力を依頼して、「生まれたときのエピソード」や「身長・体重」「名前の由来」を調べる活動を行った。まわりの人からの思いや願いを受けて命を授かり、誕生したことを誇りに思う児童の姿が見られた。また、まわりにいる一人一人の存在や命の大切さにも気付くことができた。	共生*共育 「大切なわたし」
3 川崎市	小2	生活	めざせ！ 生きものはかせ	学校での身近な生き物探しから、ヤゴを飼育することにした。ヤゴにとって適切な生育環境を調べ、飼育の方法を考えたり、飼育する中で幼虫から成虫への変化を見守ったりした。無事に羽化して、空へはばたいた成虫の姿や、飼育しきれずに死なせてしまったりして、いのちを大切にすることに気付くことができた。	
4 川崎市	小1	生活	いきものとなかよし	校庭や河川敷には、どんな虫がいるのか考えたり、実際探索したりした。幼児の頃から虫と触れ合っている児童が多く、生き物を飼っているという話も多くあった。観察の際には、草花が多くあるところに生き物が多く生息していることに気付き、どうしてなのか考えた。食べ物がたくさんあるからということには、気付いていたが、どうして食べるものがたくさんあるのか考えると、皆が草花の命を大切にしているからではないかと考える声があがった。そして、これからも人間も含めた命を大切にしていきたいと発言する児童がいた。	

5	川崎市	小1	生活	いのちの授業 ～いのちの音を 聴こう～	自分自身と動物、友達や先生の心音を聴診器を使ってみんなで一緒に聞くことで、生きているという実感をもつことができた。心音は、生きているという証であり、動物の心音を聴くことで、人間だけでなく動物も同じように生きているのだということに気づくことができた。動物の写真のパネルを見ることで、さらに気持ちについても想像することができた。	講師は、多摩区役所地域みまもり支援センターの職員。 パネルや聴診器、心音拡大器などを活用することで、具体的なイメージができた。
6	川崎市	小1	生活	実際の動物とふれあうことを通して、生き物や命への関心を高める。	川崎市が委託している移動動物園を依頼した。様々な動物に実際に触れてその温かさを感じたり、えさやりをすることを通して、生き物への興味関心が高まり、そこにある命を感じていた。	福田牧場
7	川崎市	小1	生活	「いのち」あるものとの出会い	移動動物園に依頼し、子どもたちが校庭で様々な動物たちとの触れ合い活動を行った。小さなヒヨコをそっと掌で包んだり、ヒツジやヤギの体に触れたり、ウサギやモルモットを膝の上に乗せえさを与えたりした。活動後の振り返りでは、心臓の鼓動、生きているもののぬくもり、小さな生き物に対するそっと触れなければならない思いやりなど、直接体験したものにはしか感じられない感想が多数みられた。	講師は移動動物園の職員と鶏、あひる、ヒヨコ、モルモット、ウサギ、ポニー、羊、ヤギ等。
8	相模原市	小2	生活	今までの自分の成長を絵本作りを通して知る。	助産師の講話を聞き、命が生まれることは奇跡であり、自分自身もその尊い命の一人であることを感じ、自他を大切にすることを学んだ。3学期には、自分の生い立ちについて家族に聞き、絵本を作成する。	講師：助産師
9	相模原市	小2	生活	生命の誕生	生命の誕生や命の大切さについて	マリモ助産師中島さん
10	相模原市	小2	生活	「みんな大きくなったね」	・胎児の生活 ・自分が生まれてきたときの様子 ・自分を大切にしていこう（自己肯定感） という内容を、助産師さんにお話していただく。	子育てサポートハウスmarimo助産院助産師さん ※視聴覚室（助産師さん）と教室（児童）をオンラインでつなぎ、お話していただきます。
11	相模原市	小2	生活	ぐんぐんそだてわたしのやさしい	生活科「ぐんぐんそだてわたしのやさしい」の中で夏野菜を育てた。自分が育てたいと決めた野菜の苗を手にした時に、野菜のお母さんになるという気持ちをもたせ、自分の夏野菜に名前をつけて大切に育てるようにした。毎日の世話の中で、少しの変化に気づけるように観察をしたり、声をかけて世話をしたりすることでひとつの命との向き合い方を考えることができたとともに、命をいただいて食べ物ができる感謝の気持ちを実感することができた。	

12	相模原市	小複合	生活	防災教育 「じしんがおこったときのことをかんがえよう」	9月1日の「防災の日」に合わせて、東日本大震災などの事例を紹介し、災害が発生したときの状況や、災害発生時にとるべき行動について「おはしも」の約束と一緒に確認した。東日本大震災時の写真や動画を視聴し、いつおきてもおかしくない災害について学習した。災害前と後の写真を見比べることで、地震災害のすさまじさについて、理解を深めることができた。授業を受ける児童が生まれた時期と重なっていたので、児童も関心をもちながら話を聞いて、質問もたくさんすることができた。	
13	横須賀市	小1	生活	「いきものとなかよし」	校内のグラウンドに様々な虫がいることに気付き、飼育することになった。バッタを捕まえて、飼育し始めたが、次の日には弱り、亡くなった。子どもたちは悲しそうにしていたが、次こそ食べ物をあげたり、お家を作ったりして、大事に育てたいという気持ちになっていた。そこで、図書館の本を使って飼い方を調べてから飼うことにした。飼い始めた次の日には登校中に草を取ってきたり、家から食べ物を持ってきたりする姿が見られた。また、虫の様子を休み時間の度に見たり、帰る時には「バイバイ」と声をかけている姿も見られた。このような姿から、失敗した経験を活かし、命を大切にしたいという気持ちがより強くなったと感じられた。	虫に関する本
14	横須賀市	小2	生活	明日へジャンプ 「赤ちゃんってどうやって生まれるの？」	お母さんのおなかの中で、どのように栄養をもらっているのか、専門用語を交えながら勉強した。また、おなかの中で成長する様子を月を追って勉強した。そして、その後生まれたすぐの赤ちゃんの人形を一人ひとりが抱っこしてその重さや尊さについて考えた。家族とのつながりの大切さに触れて、命の大切さを伝えた。	養護教諭とTTという形で行う。
15	横須賀市	小1	生活	いきものいのち	あさがおのお世話を通して、生命の尊さについて考えた。観察の際に「あさがおさんは、なんて言っているかな？」と聞くと「水が気持ちいい」「暑いよ」など子どもたちは、一生懸命あさがおの気持ちを考えていた。あさがおと対話することによって、植物も命をもっていることに気づき、大切にお世話をしていた。また、学級で捕まえたカエルやカマキリの気持ちも想像させることで、生き物はみんな姿形は違っても命を持っていることを確認した。授業のまとめでは、種まき、開花、種取りを経験することで命の有限性や連続性などにも気づく子がいた。子どもたちからは、「ちいさな生き物も一生懸命に生きているから大切にしよう」という声が聞こえた。	
16	湘南三浦	小1	生活	いきものいのち	学校で飼育していたうさぎが死んでしまったことを通して、人間を含め生き物の命には限りがあることを考えさせたいと思い計画した。入学してから今まで慣れ親しんだうさぎが亡くなったことに、ショックを受けている子もいたが、空になったうさぎ小屋を見に行き、お花を供え、「今までありがとう」という感謝の気持ちを伝えた。また自分の家で世話していた生き物が死んでしまった経験がある子や、担任の話聞き、限りある命を大切にしようという話し合いをした。	学校の飼育小屋の飼育から (とくになし)

17	湘南三浦	小複合	生活	植物を育てて収穫し、大地の恵みに感謝して味わおう	5月の連休明けサツマイモの苗を植えた。苗から何が育つのか、収穫できたらいただこうと呼びかけて植え付けの際に意欲を持たせた。夏に備えて朝は欠かさず水やりをした。10月下旬に収穫。児童は土の中から出てきたサツマイモを見て嬉しそうだった。収穫したサツマイモでサツマイモのケーキとごま団子を調理し、自分たちの分の他に、いつもお世話になっている先生方に届けた。お礼の言葉や手紙をもらった児童の中には嬉しそうな子もいた。サツマイモの世話から収穫、調理、試食を通して全身でサツマイモを味わい、成長することができた。	支援級、生活単元学習、5月～11月 1～6年
18	湘南三浦	小1	生活	「いもほり」	地域の方の協力の下、さつまいもの苗をを植え、成長を見守り、いもほりを行った。収穫後、さつまいもの絵を描き、ツルでリース作り、いも版画を行った。	講師は、地域の農家の方
19	湘南三浦	小2	生活	「食育」	枝豆のさやをとり、旬の野菜に触れ、身近な食べ物に親近感を持ち、実際に野菜に触れることで詳しく観察し、食べ物に興味を持つことができた。	講師は、地域の農家の方
20	湘南三浦	小2	生活	生きものをさがそう ミニトマトの観察	学校や公園にいる生き物を探し、その様子を観察した。まただんご虫やヤモリ、ありなどの生き物を教室で飼育し、命を大切にすることを学んだ。ミニトマトの栽培を行い、苗から実ができるまでを観察した。	生活科の教科書 図鑑
21	湘南三浦	小1	生活	地震・つなみから命を守る（防災教育）	・緊急地震速報が鳴ったらどうする？ 学校や家にいるときに、緊急地震速報が鳴ったらどうするか、家や学校の絵を見ながら考えさせた。危ないものから離れることの大切さを学んだ。 ・津波からいのちを守るためにはどうする？ 海が近い地域なので、津波の危険について学んだ。高いところに逃げなければならないこと、危険が完全になくなるまで戻らないことを理解した。	青少年赤十字 防災プログラム 「まもるいのちひろめるぼうさい」
22	湘南三浦	小2	生活	防犯について	知らない人に、危険な目に遭わされたら、という場面を想定し、映像を見ながら子どもたちに、何が危険か、危険を感じたらどのような行動をとればよいかを話し合い、自分の身を自分で守るために出来ることを学んだ。	自校教材・YouTube
23	湘南三浦	小2	生活	野菜を育てよう	ミニトマトとサツマイモの栽培活動を行った。種や苗を植え、水やりやわき芽つみなどの世話や観察をした。心を込めて世話をすることで、植物の生長に心を寄せ、水やりをしないと枯れてしまうことや、収穫して食べることで自分たちの命につながることを学んだ。	教科書等
24	湘南三浦	小2	生活	ヤゴを育てよう	2年生全クラスで、プールやビオトープから採取したヤゴを飼育し、観察を行った。一人ひとりが紙コップでヤゴを飼育することを通して、命を大切にすることを学んだ。命の尊さを実感することができた。	教科書等

25	湘南三浦	小1	生活	生命尊重	自分で選んだ植物を育てる活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることを通して、それらは生命をもっていることや、成長していることに気付くとともに、生き物への親しみをもち、大切にしようとする心情を育てることができた。	東京書籍 ぐんぐんそだてわたしのやさい
26	湘南三浦	小1	生活	たいせつにしよう じぶんのからだ あいてのからだ	絵本を読み聞かせながら、「プライベートパーツ」や「いいタッチ」「わるいタッチ」について学んだ。水着でかくれる部分である「プライベートパーツ」は、見るのも触るのも自分だけだということを理解した。また、お互いに気持ちよい触れ合いは「いいタッチ」、許可なく触ったり怖い思いをさせるのは「わるいタッチ」であり、拒否することが大切だと学んだ。自分や友達のからだを大切にすることを通していのちについて考えた。	養護教諭が授業を行った。 (教材) 絵本「だいじだいじどー こだ」、「いいタッチ わるいタッチ」
27	湘南三浦	小1	生活	あさがおをそだ てよう やさいをそだ てよう	あさがおを種から育てて、その成長を観察カードに記録した。また、野菜(ナス、ピーマン)については苗から育て、大きくなっていく様子の観察や収穫の経験を通して、命があることを感じる事ができた。収穫した野菜を給食で使ってもらい、それを食べることで命の連鎖についても考えることができた。	
28	湘南三浦	小2	生活	生き物と仲良し	モルモットの飼育・観察を通して小さな生き物と関わることの良さを感じるとともに、小さな命を守っていくため、自分たちの行動を見つめなおし、必要な行動について考えた。また、モルモットに名前をつけるために、自分たちの名前がどのような思いや願いをこめてつけられたかを調べた。自分自身がたくさんの人に大切にされながら育ってきたことを感じるとともに、自分自身がよりよく成長しようとする気持ちを育んだ。	
29	湘南三浦	小1	生活	いきものとなか よし	海の生き物を飼うことを通して、自分たちの「飼いたい!」という気持ちを優先するのではなく、生き物には必ず命があるということ、命を借りて授業をしていることを学んだ。そのことを十分理解したうえで、生き物が快適に生きられるように、生態や住処を調べ、おうち(水槽)を作って、飼うことができた。	教育総務課、学校教育課
30	湘南三浦	小2	生活	大きくなったよ	「日々の生活の中で自分の成長を感じたり、お家の人への感謝に気づいたりすること」をねらいとした授業である。単元を通し、初めに1年生のときと現在の身長と体重を比べ、身体の成長について考えた。次に、1年生のときと比べ、できるようになったことを考えた。「周りの友達の気持ちを考えて行動できるようになった」「自分の好きなものが見つかった」など、身体だけでなく心の成長にも気づいた。児童自身も含め、保護者が児童の1年間の成長を感じられるような手立てを担任としてとることが大切だと改めて感じた。	教材 『あしたへジャンプ』 あしたへジャンプ 新しい生活 下 出版 東京書籍
31	湘南三浦	小2	生活	ぐんぐん育て美 味しい野菜	ミニトマト、枝豆、さつまいも、大根の成長する様子を観察することで親しみをもち大切にしようとしている姿が見られた。継続的に植物を栽培する活動を通して、植物が生命を持っていることやせいちょうしていることに気が付いた。	地域のボランティアの方 にお手伝いいただき、畑 の手入れや栽培方法など 相談して行った。

32	県央	小1	生活	アサガオの種をまく計画から種取りまでを通して	アサガオを育てるための道具を準備し、種を植え、水やりなどの世話をしながら、生長の様子を見守った。はじめは好奇心がほとんどであったが、発芽したことを通して次第に愛着がわき、周りと自分のアサガオとの様子を比べるようになった。その生長の様子に違いがあることに気付き、心配をする姿も見られたが、違いを認め、自分たちの成長と同じなのかもしれないと、考える児童がいた。アサガオも自分と同じなのだという考えから、「自分のアサガオは今どうしてほしいのだろう。」と語りかけながら世話を続け、慈しむ姿が見られた。	アサガオの種まきセット
33	県央	小2	生活	大きくなあれわたしの野さい	ミニトマトを、苗から育てる活動に取り組んだ。ミニトマトの生長の様子を紙に書くだけでなく、タブレット端末を使って写真を撮って記録することで比較が容易にでき、生長がよく分かった。生長を楽しみに毎日世話を続け、自分が大切に育てたミニトマトの実を収穫できたときには、宝物のように持ち帰り、「サラダにして食べたよ。」「酸っぱかった。」と担任に感想を伝えていた。	東京書籍「新しい生活（下）」
34	県央	小1	生活	なかよくなるうね 小さなともだち	学校や泉の森公園で見ついたり、捕まえたりした生きものたちを思い出し、飼育をするために買い方や世話の仕方、生きものの特徴について考え、自分なりの問い作りをした。見ついたり、捕まえたり経験した活動から、意欲的に問いを考えて作ることができ、生きものを大切にしようとする姿が見られた。また太陽チャートを用いたことで、自分の中の？（なぜ、どうして）を考えることができた。	■場所 校庭、泉の森公園 ■教材 太陽チャート
35	県央	小2	生活	みんな 生きている	生活科の授業で「みんな 生きている」という単元を扱った。自分が選んだ生き物を見つけるところからスタートした。記録カードを準備し、観察したことや自分の気持ちを表現させ、どのように育ててほしいか考えた。「えさを忘れずにやらないといけない。水が必要。」「捕まえてきた場所と同じようなすみかをつくらないといけない」等と、とても活発に進めることができた。自分の育てている生き物だけでなく、友だちの生き物までよく見ており、少しの変化にまで心を動かし、声をあげて喜んでいた。	地域の方に、生き物がどこにいるか、すみかのことを教えていただいた。
36	県央	小2	生活	「生きものなかよし大作せん」	校庭にいる生き物を見つけ、観察し、育てていくという学習である。子どもたちは、この学習で生き物の育て方を調べたり、捕まえた生き物を大切に育てていく中で、命の大切さに気付いたりすることことができた。最後には、フォトコラージュという形で、えさ・育て方・特徴などをまとめた。生き物の命を尊重することの大切さを学ぶことにつながった。	関連資料 図書室の図鑑
37	県央	小複合	生活	野菜を育てよう	トマト、ナス、ピーマンなどの夏野菜、さつまいも、大根、かぶなどの根菜を、種や苗から自分たちで栽培する活動に取り組んだ。毎日水やりをしたり、野菜が成長する様子を観察したりすることを通して、いつも食べている野菜を身近に感じるとともに、野菜を収穫する喜びを味わうことができた。また、収穫した野菜を家に持ち帰って食べることで、家族とも収穫の喜びを共有することができた。	・特別支援学級 1～6年生で実施 ・4月～12月まで 継続して実施

38	県央	小2	生活	生きものなかよし大作せん	「生きものなかよし大作せん」では、身近な生き物を探したり飼ったりする活動を行った。この活動を通して、生き物の育つ場所や様子に関心を持ち、親しみがもてるようになった。適切な世話をし、命を大切にしようとする気持ちや命の短さや尊さを体感させることができた。	あしたへジャンプ 新しい生活下 東京書籍
39	県央	小1	生活	あさがおを育てよう	1年生は、生活科であさがおの栽培を行った。自分のあさがおに名前を付けるなどをしたことで、一人ひとりが愛着をもって心を込めて栽培することができた。また、採取した種は来年の1年生にプレゼントをすることにしている。	
40	県央	小2	生活	夏野菜を育てよう	オクラ、ミニトマト、ナス、ピーマンの4種類の中から自分が育ててみたい野菜を1つ選び、野菜が大きく育つために大切なことを考えて観察を行った。野菜にも命があり、育てた野菜も各家庭でいただくことで、食事の大切さにも気づけた。	
41	県央	小2	生活	大切にそだてよう	生き物を飼ったり、育てたりしながら、生き物が育つ場所や、変化の様子に関心と親しみをもち、生き物も自分たちと同じように生命をもっていることに気づいた。また、さまざまな生き物をいろいろ調べ、これからも生き物の命を大切にしながら関わろうとする気持ちを持つことができた。	教材：「みんな生きている」 啓林館
42	中	小2	生活	大きくなあれわたしの野菜	一人一種類の夏野菜の苗を植え、水やりや、雑草とり等の活動を通して植物を大切にする心情と成長への喜びを感じた。植物にも生命があることについて学んだ。	
43	中	小2	生活	「明日へジャンプ」	自分が生まれたときの家族の気持ちを聞いたり、どういう思いで育ててもらっているのかを調べたりして、自分のいのちを大切にしようという気持ちを育んだ。調べたことを書いたり写真を貼ったりして巻物を作り、まとめた。	2年担任教師の写真や思い出の品を参考に使った。
44	中	小2	生活	飼育・栽培	1年生でアサガオやチューリップといった花を育てる経験をした児童たちが、2年生では、野菜の育て方を調べるところから学習を始めた。ただ水をあげていればいいのではなく、水やりの適切な量が野菜の種類によって違うことや、害虫や病気への対策をしなければならぬということを知ったことで、児童一人一人が自分の野菜をよく観察し、世話をした。本学習を通して、野菜の成長や収穫ができることの喜びを経験することができた。	「ぐんぐんそだてわたしのやさい」

45	中	小2	生活	生き物を捕まえたり、飼ったりする中で、それらの育つ場所、変化や成長の様子が分かり、自分たちと同じように生命をもっていることに気付くと共に、生き物への親しみをもち、大切に世話をし、生き物の命をどのようにつないでいくことがよいか考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな生き物の世話をしたいか話し合う。 ・畑や校庭に生き物を探しに行き、住んでいた環境に合わせてすみかを作る。 ・生き物のえさや飼い方を調べる。 ・休み時間などを使って世話をしたり、様子を観察したりしながら、継続的に飼育する。(常時活動) ・自分が育てた生き物のことを友達と伝え合う。 ・カードに気が付いたことを書いたり、友達に自分の生き物の紹介をしたりする。 ・夏休みを迎えるにあたり自分たちはどのようにしたらよいかを命をつなぐという観点で考えさせる。スズムシは9月に新でしまったが、現在もたまごを返し、なにもいないようだが今も生きている。継続的に霧吹きをかけるなど、日々命を気にかけていけるようにしている。 	生活科「やさいをそだてよう」・道徳「がんばれポポ」「しぜんのいのち」も関連付けて実施
46	県西	小2	生活	ぐんぐんそだておいしいやさい	学習のねらいは、「継続的に植物を栽培する活動を通して、それらが生命をもっていることに気付くとともに、それらを大切にすることができるようになる」ことである。子どもたちは、育てたい野菜を自分で選び、鉢に植え替え、水やりなどの世話を観察を継続してきた。自分で進んで水をやること、野菜の変化を見つけることの大切さを子どもたちは自ら見だし、野菜のいのちを支えていることに気付いた。家庭の協力があり、野菜嫌いな子がこの学習を通じて、家で野菜を食べるのをがんばっていると聞いた。学習後の振り返りでは「もう(枯れそうで)だめだと思ったけど、元気になって良かったです。」と書いた子もいた。	せいかつ下 「だいすき みつけた」(光村図書)
47	県西	小1	生活	給食について	学校探検と関連し、校内にある給食の調理施設や作業中の様子を動画で学習した。給食が自分たちの元へ来るまでには、どのような人たちが関わっていて、どのような想いで作られているのかを知り、たくさんの人が自分たちの健康のために働いてくれていることを学んだ。児童たちの振り返りでは、食べることはいのちに繋がっているということから「給食を残さず食べたい」「いつも美味しい給食をありがとう」など、感謝の気持ちが見られた。	
48	県西	小1	生活	わたしのあさがお	アサガオを栽培する活動では、毎日自分のアサガオに水やりや観察を行い大切に育てる姿が見られた。そして、ぐんぐん成長するアサガオの様子から、自分たちと同じように「生きていること」「成長していること」にも気づくことができた。また、生活科の学習に合わせて、道徳の授業で、命について考え、日頃の自分自身の生活を振り返ったことも、いのちに向き合うために有効な手立てだった。9月には、花が咲いた後に種ができ、その種がまた花を咲かせることを知り、生命のすばらしさにも気づくことができた。	『あたらしいどうとく』 「ぼくのあさがお」 (東京書籍)
49	県西	小1	生活	いきものだいすき「むしだいすき」	学習の中で、児童が育ててみたい虫を選び自ら捕まえた。捕まえた虫を自分で育てる活動の中で命の大切さを知ることができた。育てている中で、虫が死んでしまうということもあったが、クラスの中で命について考えるきっかけになった。自ら虫を育てたことで、命を大切にするという気持ちを育むことができた。飼育の中で命の大切さと尊さについて一人ひとりが考えることができた。	

50	県西	小2	生活	ぐんぐん育てわたしの野菜	一人一人が自分で育てたい夏野菜を選び、継続して野菜を育てた。これまでの野菜や花を育てる経験から興味関心をもって活動することができた。野菜を育てるためには、野菜も人間と同じように過ごしやすい環境を作り、水をあげないと大きく育たないことを活動を通して実感しながら学ぶことができた。野菜の成長過程を見ていく中で、植物が生命をもっていることや、成長していることに気付くとともに、生き物に親しみをもち、大切にすることができるようになった。収穫した野菜を食べることで、野菜の美味しさや命をいただくことへの理解にもつながった。	
51	県西	小2	生活	海の学校 「生きもの なかよし 大作せん」	まなづる小学校では1・2・4・6年生で「海の学校」の授業を行い、真鶴の海岸の生き物を探したり、観察したりしている。その中で2年生は磯の生き物を捕まえ、飼育するという活動を行った。飼育中は、死んでしまう生きものもいて、なぜ死んでしまったのか調べたり、水換えやえさやりの頻度を変えたりしてきた。死んでしまった生きものを埋葬をし、その生きものを忘れないように絵を描くなど、いのちを預かっているという責任感をもって活動することができた。来年度飼育することになる1年生に、「飼育のコツを教えることで、いのちを守ってほしい。」という声が子どもから上がり、タブレットでまとめて伝えるなど、「いのち」について子どもたちが自ら考え、活動する様子が見られた。	講師 特定非営利活動法人 ディスカバーブルー
52	県西	小2	生活	「たねから 元気にたくさんそだて ベビーキャロット」	夏野菜を苗から育てた経験を生かして、冬野菜では、種からベビーキャロットの栽培を行った。一人一鉢の栽培活動に取り組み、成長の過程で起こる諸問題を解決しながら、継続的にベビーキャロットを育てた。間引き後には、「悲しかった」という思いを持つ児童が多く、愛着をもって育てていることが伺えた。栽培活動を通して、ベビーキャロットも自分と同じように生命をもっていることや成長していることに気づき、「いのち」を見つける学習となった。	地域の野菜作り名人をGTとして活用。 手作りの牛乳パックプランターを使い、一人一鉢の栽培活動を行った。
53	県西	小2	生活	稚鮎の放流	郷土学習の一環として行っている。小さな命が大きな海原で成長し、故郷の川へ戻ってくることを知り、命のめぐりを感じることができた。	